

立命館大学技術士会第8回総会【総会挨拶】

立命館大学技術士会会長の大森でございます。第8回総会に先立ちまして、ご挨拶申し上げます。

立命館大学技術士会は、平成21年(2009年)12月の設立以降7年6ヶ月余りその活動を継続してきました。これもひとえに会員皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。その間、①会員相互の親睦 ②大学の発展への貢献 ③会員の技術レベルの向上と本会の発展・拡大 ④技術士を目指す母校後進への支援 ⑤地域及び社会活動の技術的支援、助言を志向する 等、その活動も次第に定着してまいりました。

本日は、第8回の総会を開催させていただき、会員の皆様に昨年の活動をご報告するとともに今年の活動計画についてご意見をお伺いさせていただきます。

その後、コスモス法律事務所代表の四宮弁護士と立命館大学理工学部環境システム工学科の建山教授にご講演をお願いしております。

ご出席の会員の皆様には本日はよろしく願いいたします。

さて、昨年は熊本地方や鳥取地方などを地震が襲い、また、東北地方へは太平洋側から上陸した台風10号による水害、36年ぶりの阿蘇山の爆発的噴火など 多くの自然災害が日本各地を襲いました。今後、30年以内に7割の確率で発生するといわれる南海トラフ巨大地震に備えて堤防の補強や構造物の耐震化、資機材の備蓄などのハード対策や情報伝達の強化や防災訓練、ハザードマップの周知、事業継続計画BCPの策定などのソフト対策も着実に進められなければなりません。

さらに、高度成長期以降に集中的に整備された社会資本は50年以上も使い続けており、適切なメンテナンスと長寿命化を進めることが重要な課題となっております。

これら国民に迫る喫緊の課題を解決することに加え、人口減少・少子高齢化時代の地域づくり、安定的なエネルギー供給、地域規模の環境保全、さらにはインフラ輸出などを通じた国際貢献など、今すぐにも取り組んでいかなければならない課題は尽きません。

ここで重要となるのは、その役割を持続的に果たすための担い手を如何に育成するかということです。

立命館大学技術士会は、職域、性別、年齢、地域を問わず、より多くの同窓技術士の方々に当会の活動に参加いただき、次代を担う立命館大学の理工系学生の「技術者になること」への魅力の回復、技術士を目指す後輩技術者への支援・指導をお願いしております。

また、会員各位には、倫理観を持って技術士の使命たる科学技術の向上に努め、公益と国民経済の発展に資するよう研鑽していただくことを願い、そして、国内外の舞台上で活躍できる多彩な人材が輩出されることを期待し、そのお手伝いをすることを当会の目的と考えております。

これからも当会の目的と役割を確認しつつ、技術士の社会的地位の確保・向上と立命館大学の継続的な発展に向けて、行動・活動をして参りますので、皆様方のご理解とご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。